

日 時	令和〇年〇月〇日（〇）
第 校時	第〇校時 〇〇:〇〇～〇〇:〇〇
場 所	〇〇〇教室
指 導 者	〇〇〇〇

1 主題名

「手指の操作性と注視する力を高める学習」

2 対象児童

小学部〇年 男子

3 障害の状況

知的障害（療育手帳 A）

4 児童の実態（資料参照）

- ・太田 stage I－3
- ・「NC プログラムー発達記録チャート」 図 1 参照→略

5 児童観

本児は知的障害を有した児童である。NC プログラムのアセスメントを見ると、下限領域が「数」であり、「書字」「微細運動」「言語理解」も低い。上限領域が「聴覚記録」であり、次に「言語表出」が高い。

日常生活では、発語があり、簡単な質問に答えることもできる。自分から「トイレ」と言ったり、教員や友達に話しかけたりする姿も多く見られるなど、他者とのコミュニケーションを主に音声を頼りにしている。また、音楽が好きで聴いているうちに歌詞を覚えて口ずさむ様子も見受けられる。NC プログラムの数値が高い領域も「聴覚記録」と「言語表出」であることから、音や音声の情報は本児にとって認知しやすいと推測できる。しかし、NC プログラムのアセスメントの「言語理解」が低いこと、太田の stage 評価では I－3 でシンボル表象能力は好きなものや日常生活で多用する言語はあるものの、非常に限定的であることから、音や音声を認知できてもその音から物事を推測したり、理解したりするのは難しいと考えられる。本児の発語も、意味が一致しないものも多い。

また、前述した通り NC プログラムのアセスメントでは「言語理解」以外に「数」「書字」「微細運動」が他に比べて低い領域として挙げられる。「数」に関しては、太田の stage 評価が I－3 であることから推測できる通り、「数」の理解は難しい。一方「微細運動」「書字」に関しては、日常生活面においてフックにものを掛けたり、何かをつかむ時にうまくつかめたかったりすると、気持ちが不安定になることがある等、不器用さが見られるとともに、本児も苦手意識を感じていると推測される。特に細かな手指の操作となると利き手である右手のみを使用し、左手は容器や紙を押さえる等の補助にも使用していないことが多い。また、操作の際に手先に注目できていないことも、微細な運動が低い要因になっていると考える。

6 主題観

児童観でも述べた通り、本児は言語表出や限定的な言語理解等はあるものの、指示等が聞こえていても、課題の意図がわからなかったり、課題に注目できなったりすることが多い。特に微細な運動は対象に注目できないことで、うまく取り組むことができず本児ができないと諦めてしまうことも多く、困難さを感じる要因となっている。そこで児童観で述べた実態のうち、手指の操作性と注視する力を高めていきたいと考えた。指先を使う課題を中心に、本児の得意とする「聴覚」への言葉かけによる支援を交えながら、課題に注目して取り組んでいく力を育てていきたい。

7 指導観

これまでに述べた児童観・主題観から、ワークシステムを活用した机上での個別学習を展開する。課題を順番に取り組むことは難しいので教員が順番に課題を提示し、終わりの報告・確認チェックをしながら進める形式とした。課題が終わったら「できました」の報告をすることができるので、「できました」の報告ができたなら課題を教員が確認・称賛の後、次の課題を提示する。ワークシステムの課題の最後には、ごほうびタイムとして5分程度お絵かきタイムを設定する。

学習の内容は、本児の実態から、手指の操作性を高める課題や手と目の協応を狙った課題、注視する力を高める課題を中心に取り組む。本児の得意な課題や本児の好きな車等のイラストを課題の一部に使用することで、本児が飽きずに集中して取り組むことができるようにする。また、一つ一つの課題は短時間で取り組むことができるように設定することで、集中力が続くようにする。手指の操作性を高める課題は、指先の感覚を刺激する課題をはじめに設定し、その後掴む、入れる、掛けるといった本児の日常生活でも課題となる動きを取り入れた。また、物を掴んで容器に入れるといった課題では、手と目の協応を狙うために、課題のはじめに「よく見てね」と言葉かけすることで、本児が意識できるようにする。注視する力を高める学習は、ビジョントレーニングを参考に本児が目で課題を追うことができるように題材をイラストにした。

課題に取り組んでいく中で、手指の操作性と注視する力を高めていくだけでなく、できたという経験や達成感を育んでいき、今後の日常生活や学習に向かう集中力や意識も育てていきたい。

8 指導目標

- ・ものを入れる、持つ、掛けるといった動作の操作性を高めることができる。
- ・入れる、掛けるといった活動の際に、手指を目で注視して取り組むことができる。

9 展開（40分）

学習活動	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	準備物
○始まりの挨拶 1分	・ 教員への注目を確認する。意識が向かない場合言葉かけで注目を促す。 ・ 背筋を伸ばすように必要に応じ「足」「姿勢」等の言葉かけで促す。	
○マッチング課題 2分 車のイラストのマッチング。	・ 1人でできる課題なので提示した後は見守る。	課題

○ビジョントレーニング課題 5分 イラストカードの追視、回答。 ○手指の巧緻性を高める課題 5分 指先で突起を押し潰す課題。 ○プットイン課題① 4分 ストローを醤油さしの穴に通す。 ○プットイン課題② 3分 ビー玉を容器の穴に通す。 ○フックかけ課題 3分 ヘアゴムをフックに掛ける。 ○型はめ課題（○△□） 2分 丸、三角、四角の9つの型はめ。	・「できました」を伝えることができたなら、車のイラスト（パトカー、消防車、救急車）の名称が曖昧なので一緒に確認する。 ・24枚のイラストカードを1枚ずつ手で隠して動かす。児童が追視していることが確認できたら裏返し何が描かれていたか聞く。正解できたら称賛する。 ・1人でできる課題なので提示した後は見守る。 ・右手だけでなく左手でも潰すように言葉かけをする。 ・手が止まっているときは「頑張ってるね」や「集中しましょう」と言葉かけをする。 ・課題に注目して取り組むように言葉かけをする。 ・ストローは1本ずつ持って入れるように提示する際に言葉かけをする。 ・醤油さしを左手で持って右手でストローを通すように提示する際に言葉かけをする。 ・課題に注目して取り組むように言葉かけをする。 ・ビー玉は1個ずつ持って入れるように提示する際に言葉かけをする。 ・容器を左手で持って右手でストローを通すように提示する際に言葉かけをする。 ・課題に注目して取り組むように言葉かけをする。 ・ヘアゴムは1つずつ教員が手渡しする。 ・課題に注目して取り組むように言葉かけをする。 ・1人でできる課題なので提示した後は見守る。 ・課題に注目して取り組むように言葉かけをする。	
--	---	--

○16片型はめ課題 3分 ボールや木の形をした16種類型はめ。 ○マジックテープ課題 3分 マジックテープのついたゴムを引っ張ってくっつける。 ○仕分け課題 3分 お弁当用のピックを同じ写真の容器の仕分けに仕分ける。	る。 ・型は1つずつ提示する。提示した際に「これは」と言葉かけをして本児が答えることができたなら型を本児に渡すようにする。 ・「花」と「ヒトデ」の型は1人ではめることができないことがあるので、戸惑っているときは型の向きを合わせる等の支援をする。 ・「びよんぺた」の言葉かけをしながら身体支援を交えて取り組むようにする。 ・課題に注目して取り組むように言葉かけをする。 ・ピックは、ピック刺しに刺した状態で提示し、1つずつつまんで抜くように言葉かけをする。 ・仕分けを間違えてしまったときは教員がピックを取りもう一度本児へ提示する。 ・課題に注目して取り組むように言葉かけをする。	
○終わりの挨拶 1分 ○ごほうびタイム（お絵かき） 5分	・教員への注目を確認する。意識が向かない場合言葉掛けや肩を叩くなどで注目を促す。 課題がすべて終わったことを称賛し、ペンと紙を提示する。	ペン 紙

10 評価

○児童の評価

- ・物をもって容器に入れたり、フックに掛けたりすることができたか。
- ・課題を注視して手と目を協同させられたか。

○指導方法や教員の手立てについての評価

- ・アセスメントや実態からの課題設定は適切であったか。
- ・目標に対しての有効な内容であったか。